

南区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
子育て支援啓発事業		南・子育て支援課			
事業目的	事業内容	活動指標	H29	H30	H31/R1
地域や関係機関と連携しながら、親子や子育て世代の交流を促進し、子育て支援情報等の提供やニーズに合わせた相談支援を行い、子育て家庭の孤立化を防ぎ、育児不安の軽減を図る。	・親支援事業10回(父親母親向け4回・母親対象4回・家族向け1回・講演会1回) ・学校地域関係講演・研修会1回 ・学生との子育て支援啓発(桃山学院教育大学)1回 ・子育て関連情報リーフレット等作成 ・子育て支援情報の提供及び相談支援 等	参加者へのアンケートによる満足度(満足) 配布部数等	88,3%	98%	98,6%
			南区おでかけマップ 5,000部作成、配布	南区おでかけマップ 5,000部作成、配布	南区おでかけマップ 7,000部作成、配布
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性		
◎ 子育てのまちの実現に向けて、親子のふれあいや子育て世代の交流ができ、子育てに関する情報を発信することにより孤立化の防止と育児不安の軽減を図ることができる。	◎ NPO法人への業務委託や、大学生が企画運営する子育てひろばの協力をし、学生のマンパワーを活用しながら子育て支援の啓発事業を実施した。また、教育現場との子育ての現状の共有という視点で研修を開催した。	◎ 父親向け子育て支援事業に関心の高い家族の参加が増えている。初めての出産を控えた家族向けの講座についても子育て手技ではなく精神面についての講座を開催することによって参加者からの評価が高かった。	△	大学との協働による子育てひろばの企画運営については常に新たな視点が学生からうまれる。共催を重ねることによって学生の視点も成長している。学生の運営メンバーは毎年変わるが、きちんと引き継がれて運営される部分もある。	
⑤自立発展性		総合評価			
○ 行政として子育て支援啓発を実施することは重要であるが、民間との協働も積極的に考えていく必要がある。	◎ 区内にある大学の学園祭との協働での学生のマンパワーを活かした取り組みを継続してきたことにより、学生が主体となった運営に移行ができている。また、子育て講演会の開催によって、子育て世代の交流が促進された。事業の実施回数が増えたことにより、子育て支援情報の提供機会と回数が単純に増えた。また、大学及び幼児教育を志す学生や、地域の子育て関係団体等と協働することにより、地域の子育て力の向上や、子育て中の親子の育児不安の軽減と孤立化の予防をはかることができた。				
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	アンケートによるとイベントに参加した98.6%の方がとてもよかった、よかった、満足している、参考になったと評価をしていることがわかる。各行事のアンケート回収結果においても、満足度が高かったことがうかがえた。今年度のイベントは昨年度から継続的に力を入れている、親支援を主な目的に取り組み、また、パートナーシップの観点からの父親支援に踏み込んだ。アンケート結果からみても継続的な父親支援に対するニーズが高いことがうかがえたが、父親自身が子育てを主体的にするということではなく、父親自身が子どもといかに楽しめるかどうかという点が強くなる傾向があり、父親支援事業の目的にかがけている父親が社会とつながり、父親自身が子育てを楽しむことで子育ての視点をわが子から周りの環境に広げていくことができるようにという部分には遠かった。しかし、親支援のイベントの有用性は高く、また当事者のニーズも高いことが分かったので、親支援に関しては継続的に取り組んでいくことが必要であると感じる。親自身が子育てを前向きにとらえ、孤立していかないように社会とつながることで社会的なリスクの軽減やコストダウンにつながることに寄与できると考える。次年度は児童福祉法改正により体罰等によるしつけが禁止されることから、子どもの権利擁護を中心に親支援と体罰禁止を軸に事業を展開していく方向である。				